

令和元年度林業成長産業化地域の事業報告会モデル事例報告
山口県長門地域

～林業成長産業化への挑戦～

地域の司令塔となる新法人を設立し、長門の特性を活かした林業成長産業化を目指す

□現状と課題

本地域の森林率は約75%であり、人工林の約54%を10齢級以上が占め、本格的な利用期を迎えている。また、国内最大級の木造庁舎の建設など、地域産材の積極的な利用を推進している。一方で、素材生産は市外の林業事業体に頼っているなど、市内に担い手が不足していることや、成熟した森林資源を安定的に利活用していくための体制づくりが課題となっている。

□アプローチ

施業の効率化・低コスト化を図るとともに、新たな流通販売体制により森林から生まれる利益を所有者等に配分していく仕組みを構築しつつ、森林資源の確実な更新を図るため、「地域の実情に明るい」、「専門知識や公平な視点を有する」、「強いリーダーシップを発揮できる」といった要件を備えた林業成長産業化に向けた地域の司令塔となる新法人を設立することとした。

□取組の効果・成果

これまで新法人の組織形態・位置づけ・役割・ファイナンス等について協議会及び実務者協議等において議論を重ね、新法人の出資者及び法人運営のキーマンを確保することができた。令和2年度の設立、運営開始となる。

□成功要因

協議会のみで議論を進めるのではなく、利害関係者への訪問説明等を行い、地域が抱える課題の共有や目標、法人設立のメリット等を丁寧に説明したことが合意形成に繋がりを、出資団体の確保や法人運営のキーマンの確保に繋がった。

□他地域でも応用できる考え方

今後全国的に「新たな森林管理システム」が推進される中で、新しい組織の設立や他地域からの事業者が参入する事例が発生することが予想される。本地域が実施した市内事業者との課題や目標を共有した議論を展開していくことは、他地域においても参考になると思われる。

